

「一隅を照らす、 これすなわち国宝なり」

この言葉は、最澄*2が示した人間の生き方を表している。誰しもがそれぞれの「ひと隅」で役割を持ち、その場で最善を尽くすことが、結果として周囲に光をもたらすと

いうこと。まさに、オーナーや運営者たちはまちの一隅を照らし、その情熱と楽しさが多くの人々を引き寄せている。その光は、無理に押しつけられたものではなく、自然に輝いている。

ささやかであっても自由な光が

あちこちに満ちるまちは、困難を乗り越える力のある、誰もが生きやすいまちに違いない。

*2 最澄：平安時代初期の日本の仏教僧。天台宗の宗祖であり、比叡山延暦寺を開いた。

ふれる・つながる・ひろがる

地域共生のいえ かわら版 第18号

発行 令和7年3月

1 在林館

所在地 世田谷区羽根木 2-34-4
連絡先 03-3322-7600
開館日 毎週木曜日 14:00～18:00
開館日の詳細はHPをご覧ください
<http://aririnkan.blog.fc2.com/>



2 読書空間みかも

所在地 世田谷区奥沢 2-33-2
連絡先 dokushomikamo@gmail.com
開館日 毎週木曜日 12:00～16:00 ほか
開館日の詳細はX(旧Twitter)をご覧ください
<https://x.com/mikamoyotei>



3 ケアラーズカフェ KIMAMA

所在地 世田谷区桜丘 5-15-11
連絡先 03-3439-1650
活動日 ケアラーズカフェ KIMAMA：
毎月第3木曜日 13:00～16:00(申込制)
詳細はお問い合わせください
<https://www.facebook.com/carerscafe.kimama/>



4 いいづかさんち

所在地 世田谷区八幡山 3丁目
連絡先 03-6750-5840
活動日 毎月第2水曜日
13:00～14:00/
14:00～16:00(2部制)
詳細はお問い合わせ
ください
<https://www.instagram.com/iizukasanchi/>



今号で取り上げたいえ

20年目の「地域共生のいえ」

新しく「地域共生のいえ」に仲間入りした《いいづかさんち》は、釘を使わない伝統構法で建てられたお住まいをひらいています。太い柱と梁を組み上げた古民家風の造りが懐かしく、訪れた方々にも「故郷を思い出してほっとする」と好評です。登録は2024年。「地域共生のいえ」第1号が誕生した2005年から、実に20年が経ったこととなります。この間、オンラインでのやりとりが普及し、人々のつながり

方も一変しましたが、地域の人々が顔を合わせ、助け合い、日々の小さな喜びや悲しみを分かち合える物理的なつながりやコミュニケーションの場は、以前にも増して求められているように感じます。トラまちでは、そうした場づくりを様々な形でサポートしています。「家をひらいて何かしてみたい」とお考えの方はお気軽にご相談ください。(MM)

トラまちから



自宅の一部や、ご縁のあった家をまちにひらき、
多様な人々と長い時間を紡いで。

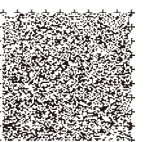
色とりどりの自由なつながりを生みだし続ける、地域共生のいえ。
その「極意」のようなものをお聞きした。

イラスト：瓢斎(小塚秀忠)

発行：一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5
TEL 03-6379-1621
<https://www.setagayatm.or.jp>



「地域共生のいえ」は、世田谷区内のオーナーが自己所有の建物を活用して行う公益的なまちづくり活動とその拠点です。人々の交流が広がり、多様な絆が育まれることで、子どもから高齢者まで誰もがいきいきと自分らしく暮らせる「地域共生のまち」の実現を目指しています。



家…座談会

まちのあちこちに 「ひと隅を照らす」場所ができて

世田谷区内の「地域共生のいえ」には長年、まちの人たちとあたたかな関係を築いてきたオーナーや運営者さんがいる。それぞれの日々をどのように紡ぎ、照らしてきたのか、皆さんにお話をうかがった。

成り立ちは色々

司会者：皆さんは「地域共生のいえ」として登録されてから、長い年月、運営に関わってきました。最初に、各々がどのように運営を始めたのか、簡単にお聞かせください。

在塚：私は三代続く自宅の一部を小さなギャラリーとしてひらいて、色々な展示をしてきました。世田谷トラストまちづくりの「住まいをひらく」という理念に共感し、

2013年に「地域共生のいえ」として登録しました。開設以来、家の内外に関係なくひと休みできる「休み石」*1のような場所を意識してきました。地域に伝わるダイダラボッチの伝説や、近所の和田堀給水所の展示をすると、詳しい方が来訪されて私が知らなかったことを教えていただける。ずっと発見がある日々です。

町田：発見といえば。かつて古書店を営んでいたので奥の方にいるのが得意な私が最近表に立って「どうぞー」なんて言えるようになりました。自分再発見です。関東大震災後に海軍士官が住んだ、この家と2006年に出会った時に一目で魅了され、《読書空間みかも》と名づけ、運営者として最初の10年の活動に携わりました。出会っ

た頃80歳のオーナーは現在99歳。百人一首に参加し、《みかも》で過ごす時間を一緒に楽しんでいます。

岩瀬：私はその名の通り「気まま」に自宅でやってきました。子どもたちが小さかった頃はお菓子教室、その後地域に自宅をひらき、やがてそれぞれ親の介護の問題が浮上してからはケアラズカフェを。2014年に「地域共生のいえ」として登録しました。2018年からは当事者の方もいらっしゃる認知症カフェを月に一回、お隣の区民センターで開催しています。

「まぜるな危険」の、 コロナ禍がきて

司会者：成り立ちも経緯も様々。豊かなつながりができていた矢先に2020年のコロナ禍が。あの時はどうしていましたか？

在塚：ちょうどギャラリートークをしようとしていた矢先のことでした。中止にし、当時のご近所の方が散歩のついでに寄ってくださるような場所になっておりました。

町田：高齢のオーナーのご自宅でもあるため、用心を重ねておりました。その間にオンラインでの交流を始めました。遠くの方ともつながれて、困難な時期でしたが、できることをできる分だけ、とい

町田恵美子さん

(読書空間みかも)

2006年から活動を始め、「地域共生のいえ」に登録された2010年4月に運営者としてかわる。2018年8月、オーナーの黒井さんが館長となったのを機に、みかもへの活動に復帰。現在は、みかも保存会のひとりのメンバーとして運営を支えている。

う手探りの時間でした。

岩瀬：あの当時、家から出ることなく足腰が弱ってしまう方や認知症が進んだ方が増えたと聞き、これはどうにかしなければと消毒やマスクを徹底しながら、必死に開けていた気がします。

訪れる人の数は関係ない

司会者：コロナ禍も三者三様に乗り切ったのですね。その時々に応じて住まいのひらき方も自由自在。この、極意のようなものってなんだと思われませんか？

岩瀬：私たちは、行政の助成金などで運営しているわけではありませんから、自由度が高いと思います。来訪者数のグラフも右肩上がりじゃなくてもいいのです(笑)。かつて我が家の近くに住んでいた常連さんが急にいらっしゃらなくなった。気になっていたら、倒れて入院されていたとのこと。退院したものの半身不随に。それから徒歩5分の距離を30分かけて、それでも私の作ったケーキを楽しみにうちに来たいと思ってくださっている。この人のためにどんなことがあっても開けようと思いました。

*1 休み石：かつて街道沿いなどにあった身近な石。道を行き来する人々が腰をかけたたり、荷を背負ったままひと息ついたりすることができた。《在林館》の外構部にも休み石が設けられている。

在塚礼子さん

(在林館)

2012年10月、母の過ごした部屋を開き、翌1月「地域共生のいえ」に、数年後、庭を「小さな森」*に登録。まちの歴史を語り継ぐ場として、まちの人々が集う場として、祖父母の代から住んできた場所を存続させていきたいと思っている。

*個人宅の庭などを地域に公開する制度。

岩瀬はるみさん

(ケアラズカフェ KIMAMA)

ケーキ教室を10年間主宰した後、1994年に自宅を開いて地域の居場所づくりを始める。2014年、介護家族の支援の場「ケアラズカフェ」を開設。確固とした理念があって始めたわけではないが、結果的には長年地域福祉の活動に携わることとなった。



「ひと息」つける場所だから こそその機能がある

司会者：「地域共生のいえ」という場所が、単なる物理的な空間ではなく、人と人がつながる大切な機能であることがよくわかるお話だと思います。

ところで今、まちでひと息つける場所が消えつつある気がします。

在塚：ひと息といえば「水飲み場」も消えた気がします。お金を払ってお水を飲む感じはなんだか違和感が。

岩瀬：ひと息つきに、私たちはいつだってどうぞどうぞなんです。

在塚：いらしたら皆さん、滞在時間は長めです(笑)。

町田：うちも「読書空間」と名づけて20年近くになりますが、今ではあちこちに読書をゆっくり楽しめるブックカフェができていますね。

岩瀬：私たち、時代の先を行っているのよね!(笑)

「継ぐ」というかたちの自由さ

司会者：この先、何か残していく、引き継いでいくという方向もそれぞれにお考えのことと思いますが？

町田：《みかも》は築100年を迎えようとしている住宅です。もし、この建物をこのまま残せる方法があるならば……手探りは続けていきたいと思います。

在塚：こういったことを何か熟成されたかたちで残すことができたらと、思っています。文字で、記録で残すことを当面の課題と考えています。

岩瀬：何かのかたちで残さなきゃ、と思った時期もあります。でも、個人でできることには限界もあり、そこにこだわると日々の運営がうまくいかなくなる。かたちにこだわらず、できることを精いっぱいやることで別の場所で何か芽を出すかもしれない、今は考えています。

司会者：本日はありがとうございました。

《ケアラズカフェ KIMAMA》の様子(2023年5月)

